






議 長	局 長	次 長	主 幹	主 査
				

平成29年 8月 7日

養父市議会議長 様

議員氏名

藤原芳巳



政務活動概要報告書

政務活動の概要を下記のとおり報告いたします。

記

1 活動月日

平成29年8月3日（木）～平成29年8月4日（金）

2 活動場所

〒520-0106

滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号

全国市町村国際文化研修所

3 活動者氏名






政次悟議員、植村和好議員、足立隆啓議員、谷垣満議員、

田路之雄議員、勝地貞一議員

4 活動内容

平成29年度第2回市町村議会議員特別セミナー



議 長	局 長	次 長	主 幹	主 査
				

平成29年 8月 7日

養父市議会議長 様

養父市議会議員

藤原芳巳



研修成果報告書

養父市議会議員研修要綱第7条の規定により、下記のとおり成果を報告します。

記

1 研修日時

平成29年8月3日(木)～平成29年8月4日(金)

2 研修先

滋賀県大津市唐崎2丁目13番1号
全国市町村国際文化研修所

3 研修目的

平成29年度第2回市町村議会議員特別セミナー

4 成果(具体的に)

① 2025年に向けた医療介護総合確保政策(地域包括ケアシステムと地域医療構想)

人類史上初めての現象として、健康寿命後の高齢者の増加が予想される。生活支援を行うことで、要介護期間を短くする、医療費を使うことを遅らせるなど、2025年までに仕組みを作っておく必要がある。

② 子供の貧困対策(子供の貧困の現実と対策)

相対的貧困とは格差の問題、可哀想という話ではなく、経済発展の問題である。金がない、つながりがいい、自信がない状況を社会が補っていく。例えば子ども食堂を介護予防にかけ、運営サポートをしていく、高齢者と子供、両者の居場所ができ地域の活性化にもつながる。

③ 認知症対策(団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けて)

認知症医療には限界がある。何が問題の本質なのかという視点を大切に、地域包括ケアシステムの構築、認知症になっても住み続けられる地域づくりが必要。平成30年からすべての市町村で、認知症地域支援推進員を増やし、認知症カフェの設置を目標とする。

④ 災害と福祉の連携(これまでの活動実践から) 災害関連死(直接的な被害でなく、その後の避難生活での体調悪化や過労など間接的な原因で死亡する)を防ぐためのポイント

を、体験に元図いてわかりやすく解説していただいた。避難生活での最低限な生活環境の条件とは、トイレ・寝床・食事が整っている。暮らしの感覚を失わない環境がある。人のつながりが絶たれない。医療・看護・福祉・行政との連携があること、である。

